

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち20写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

2月1日～26日の間、全20写本を豊田中央図書館5階展示室にて展示しています。

今月の展示写本

(1) 新約聖書や詩編の写本 (①～④)

(2) 聖書以外の写本 (⑤⑥)

①【新約聖書 Vat. Lat. 39】

13世紀前半に南イタリアでヴェネツィアの貴族ゾルツィ家のために製作されたと推測。縦20cm 横15cm の小型の写本。

172葉に118点の挿絵が描かれています。挿絵は4福音書と使徒行伝・黙示録に描かれ、黙示録の挿絵が26点と一番多く描かれています。

②【ホルカム聖書】

14世紀初頭にロンドンで制作された聖書絵本。旧約聖書と新約聖書の代表的なよく知られたシーンが230以上のイラストで描かれています。絵本は聖書全体を描いてはおらず、3つのセクションに分けられています。一つ目は旧約聖書の創成期からノアの箱舟(ff2-9)が、二つ目は外典も含んだ福音書によるキリストの生涯(ff10-38)、そして最後に黙示録(ff39-42)が描かれています。

③【ラットレル詩編】

1325年～1340年にイギリス北部の裕福な土地所有者ラットレル卿によって作成された350×245の大きさで309葉の羊皮紙に描かれた大部の写本。

本文周縁部に中世の生活(農業、狩猟、娯楽、音楽制作)が描かれ、14世紀の日常生活が窺われるとともに、人間の頭、動物/魚/鳥の体、植物の尾を組み合わせた想像上のハイブリッド怪物が多数描かれています。

④【マックルズフィールド詩編】

1330-1340年頃のイギリス東部で制作された写本で、豪華に彩色されています。大きさは170×108mmという小型の縦長ですが、252葉の羊皮紙に美しく彩色され、ラットレル詩篇同様に周縁部に描かれた挿絵は雑多なイメージで溢れています。

擬人化された動物たちが当時の人々が楽しんだ狩りや馬上槍試合に興じたり、ネズミが猫をやっつけ、兎が猟犬を獲物にひっさげてさかさまの世界が展開され、お猿のお医者さんが薬を処方し、狐の司祭がアヒルに説教するなど痛烈な風刺が披露されたりしています。

⑤【カノッサのマチルダ伝】

神聖ローマ皇帝とローマ教皇とのキリスト教的な世界秩序の首位権争いを象徴する有名な事件「カノッサの屈辱」(1077)を挿絵とともに伝える貴重な同時代史料。

⑤【動物寓意集】

1225年から1250年頃に制作された動物図鑑のような写本です。当時のイギリスではこのような写本が流行っていたようです。

陸上の獣・空を飛ぶ獣・海の獣に分けられて、それぞれ野生動物から空想上の幻想的な獣までその習性と特徴とをキリスト教的教訓とを結びつけて、そこに寓意や諷刺を込めた内容となっています。140匹以上の説明が135点の挿絵とともに描かれていて、キリスト教徒の道徳的教化、布教に大きな役割を果たしました。

⑥【ジョヴァンニーノ・デ・グラッシの素描帖】

14世紀末にミラノ大聖堂造営を指揮した大工房のモチーフ集を忠実に再現。写実的な動物や鳥類のほか、優雅な国際ゴシック様式の女性像、野生人、エンブレム、植物文、形象アルファベット一式など、第1級の素描を蒐め、形象の形成とその国際的な伝播を今に伝える必見の素描帖。